

MIU教育学部 News Letter

No.
36

見たことのない景色を見て、見たことのない自分に出会う



教育学部長メッセージ

みずからの成長を“証明”する

教育学部長 河原 国男

今(2月初め)、4年生は必修「教職実践演習」で、教員として最低限求められる複数の資質能力がどう身についたか、その成果と課題を明らかにするレポートの提出に、卒業論文の提出とともに、最後の局面で奮闘しています。その努力は、みずからによる成長の証跡の一部、もしくは全体を、みずからによって“証明”する行為といえます。具体的な事物(ノートの記述、記録、写真、動画、制作物等)によって根拠づけることです。こうした成長証明は、当の4年生には、目の前の一授業課題としてしか意識されないでしょう。しかし、その主観的な意識を超えて、非常に重要な実践的行為に違いありません。

第一に、日常的な行為として必須であること。

第二に、児童、生徒、学生にとって重要であるのみならず、市民としても必須であること。

第三に、誰かに提出するということが重要であるのではなく、みずからの成長のために、みずからに向けて納得させる行為として重要であること。

そのような意味での成長の“証明”は、私の個人の意見として強調するものではありません。ドイツ語で、**bewähren**といえます。前世紀の社会科学の巨匠として私も敬愛するM先生が、そのプロテスタンティズムに関する古典的著作のなかで記述した言葉です。

こうした成長の「証跡」は、身の回りに幾つも見出せます。

3年生;20日間の教育実習期間、子どもたち一人一人の名前を覚えて教壇に立つことができたこと。その経験を記述した実習日誌。

2年生;自分の興味関心から出発して問題設定し、資料を整理し発表する忍ヶ丘教養Ⅲの発表資料。

1年生;90分の授業にも慣れ、板書事項のみならず、口頭説明も書き留め、自分流に工夫できるようになったノート。

これらは成長を「証」す一端です。皆さんはみずからの成長の姿を、そこ、ここに見出すことができるでしょう。それによって「生きる力」の根拠として自身を鼓舞することができます。教員たちが組織的に追求する「学修の成果」の「可視化」と仮に違っていたとしても、全然問題ありません。

卒業生へ贈る言葉

見たこともない景色。その先へ。

教育を軸に学び、人と向き合い、考え続けた日々。その一つ一つの積み重ねが、皆さん一人一人の確かな力となっています。講義や演習、教育実習を通して培ったのは、知識や技能だけではなく、多様な価値観を受け止め、他者と協働しながら課題に向き合う姿勢です。迷いや試行錯誤を重ねた経験も、皆さんの成長を確かなものにしてきました。進路は教職にとどまらず、行政や企業、地域社会など、活躍の場はさまざまに広がっています。



教育学部講師
杉田 康之

社会へ踏み出すその先には、「見たこともない景色、見たことのない自分」が待っています。本学での学びに誇りを持ち、それぞれの場所で自分らしい挑戦を重ねてください。

私たちは、皆さんの歩みと成長を、これからも温かく見守っています。

卒業を控えた4年生から

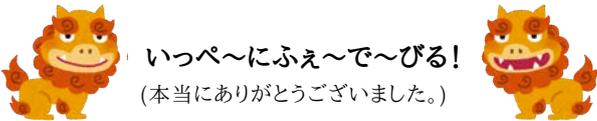


教育学部4年
大嶺 和香
(沖縄名護高等学校)

いちやりばちよ〜で〜、ゆいま〜る
(みんな出会えば兄弟) (助け合い)

私は沖縄県出身で、タイトルの沖縄方言を大切に学生生活を送りました。初めて地元を離れて寂しく不安な思いもありましたが、宮崎国際大学の仲間は、決して私を一人にすることはありませんでした。私達は苦しい時も辛い時もいつも一緒になって助け合い、支え合ってきました。仲間がいたから乗り越えられたこともたくさんあります。仲間の大切さを改めて学びました。皆と切磋琢磨してきた大学生活は、人生の中で1番成長したと感じることができ、短いようでとても濃厚な4年間だったと思います。

私はこの経験を、教師になって子ども達に伝えていきたいです。そして宮崎国際大学の仲間と出会えたことに感謝したいと思います。私の一生の宝物です。第2の故郷である宮崎県が大好きです！教育学部の仲間が大好きです！



卒業論文発表会を終えて



教育学部4年
大久保 友人(高鍋高等学校)



4年生の集大成とも言える卒業論文発表会を、たくさんの教職員の皆様の支えにより無事終えることができました。

発表会では、自分の研究内容を少しでも分かりやすく伝えるために、他者の視点から見たときの自分の発表を、具体的に想像しながらスライドを作成しました。そのため、発表会を通して、客観的に物事を見る力が身についたと思っています。この力は、社会人になっても生かされると思うので、これからも広い視野で自分を捉え直し、周囲にも目を配りながら、社会の課題を解決することにつなげていこうと思います。

最後に、卒業論文を熱心に指導して下さいました渡邊耕二教授と、自分のやる気を底上げしてくれた同研究室のメンバーに、この場をお借りして感謝申し上げます。

卒業論文タイトル
「数学教育研究における効果量・検定力・サンプルサイズの再検討」



教育学部4年
今井 すず
(宮崎学園高等学校)

見える姿の、その先を見つめて

この4年間で、講義や実習を通して子ども理解を深めることができました。目に見える子どもの行動や言葉だけを見るのではなく、その背景にある思いや育ちなど「水面下」にも目を向けることの大切さを学びました。また、子どもの話を耳で聞くだけでなく、その表情やしぐさからも気持ちを感じ取り、心で受け止めることを意識してきました。実習ではうまく関わらず悩むこともありましたが、その経験があったからこそ、一人一人と丁寧に向き合う姿勢の大切さに気付く事ができました。

4月からは、保育者として現場に立ちます。子ども一人一人の思いに寄り添い、表に見えない気持ちにも気付き、瞬時に支援を選択できる保育者に、そして、子どもが安心して自分らしく過ごせる環境を作れるよう努めていきたいです。大学での学びや経験を土台に、これからも学び続けていきたいと思っています。

卒業論文発表会講評



教育学部講師
城戸 佐智子



第9期生の卒業論文発表会が行われました。採用試験の勉強や教育実習等と並行し、研究に十分な時間を確保することが難しい中で、指導教員とディスカッションを重ねながら、それぞれが主体的に研究に取り組んできたことと思います。

卒業研究では、課題の明確化から研究計画の立案、調査・実験後のデータ整理、結果の考察、文章化、スライド作成、そして内容を分かりやすく伝えることまで、どの過程も容易ではなく、多くの試行錯誤があったことでしょう。その中で身に付けた、課題を見つける力、根拠をもとに考える力、自分の考えを言葉で伝える力は、今後社会人として様々な場面の課題に向き合う際に必ず生きてきます。質疑応答で見られた誠実な姿勢も、専門職として大切な資質です。この経験を自信に、これからも学び続けてください。応援しています。



教育実習に参加して



教育学部3年
中 蘭 蒼
(宮崎西高等学校)



教育学部3年
宗 安 優
(鹿児島松陽高等学校)



小学校での教育実習で、「教員になりたい」という思いがより一層強くなりました。実習前は指導への不安もありましたが、現場での学びへの期待も大きく、胸がいっぱいでした。実習では4年生の教室に入りました。子どもたちの優しさや互いを思いやる姿に触れ、すぐに学級に馴染むことができました。

研究授業では、教材研究の重要性を痛感しました。特に「特別の教科 道徳」では、本音を引き出すためにあらかじめ児童の反応を多角的に予想し、問いの質を深めるなど、綿密な準備が不可欠だと学びました。教材研究における「教師の気づき」が授業の質を左右することを実感しました。実習校の先生方が親身になってご指導くださったおかげで、自分自身の課題と向き合いながら充実した20日間を過ごすことができました。この経験を糧に理想の教員像を目指して精進していきたいと思います。

私は教育実習に参加して、児童との関わり方や授業の構成の仕方など、大学の講義では学ぶことのできない多くの経験や知識を身につけることができました。教育実習では特に授業に力を入れて取り組みました。実際に小学1年生の反応を見ながら授業を行う中で、授業の難しさを実感するとともに、しっかりと理解してもらえた時には大きなやりがいを感じました。大学の講義で学んだことを生かす場面も多くあり、日頃から講義の内容をしっかりと理解しておくことの大切さを実感しました。また、特別な支援を必要とする児童と関わる中で、対応の難しさを感じる場面もありました。

今後は、大学の講義を通してさらに知識を深めるとともに、実際に児童と関わっている先生方の姿から、多様な関わり方を学んでいきたいと思います。教育実習で得た学びを、今後の大学生活や教員になった際に生かしていきたいです。

地域と学びをつなぐ「土呂久に集まれ！」プロジェクトのあゆみ

私たちは、「土呂久に集まれ！」として、今年度もMIU学生チャレンジ・プロジェクトに採択されました。宮崎国際大学教育学部の2～4年生有志を中心に学内外で活動しています。

本プロジェクトは、魅力溢れる“土呂久の今”を発信するとともに、将来教員を目指す私たち自身の学びを深めることを目的としています。2022年に結成されたこのプロジェクトは、今年で4年目を迎えました。

活動としては、地域行事への参加や子どもたちと関わる体験活動、住民の方との交流、定期的な整備、大学での公害に関する専門的な学習などを行いました。

実際に現地を訪れ、地域の方々の思いや歴史に触れる中で、教室の中だけでは学ぶことのできない「生きた学び」を実感することが出来ました。また、活動を進める中で、メンバー同士で意見を出し合い、役割を分担しながら協力することの大切さも学ぶことができました。なかなか思い通りに進まない場面もありましたが、その一つ一つが貴重な経験となっています。今後も、地域とのつながりを大切にしながら、学びをより深めていきたいと考えています。



教育学部2年
工 藤 康太(熊本八代清流高等学校)



参加メンバー

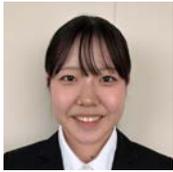
(教育学部4年)井野 敏紀・岩切 友敬・岩切 うらら
(教育学部3年)國谷 公平・鈴木 愛仁・上床 晃汰
(教育学部2年)濱口 愛美・濱砂 剛志・橋本 幸汰
工藤 康太・舩永綾花・森園 恵実・坂本 珀美



幼保 幼保学生の学びをご紹介します



- ◆子どもに出会う
- ◆保育のいとなみに出会う
- ◆子どもを取り巻く諸問題に向き合う



教育実習に参加して

教育学部3年 新穂 愛未
(都城西高等学校)



制約の中でも叶える遊び

—病棟保育士はさまざまな人をつなぐ架け橋—
教育学部2年 濱口 愛美
(宮崎南高等学校)

幼稚園での教育実習を通して、子ども達の日々の生活や遊びの中に多くの学びと成長があり、保育者の関わり方ひとつで、子ども達の意欲や主体性が大きく育っていることを実感しました。保育者の言葉がけの中には、子ども達が自分自身で見通しをもって行動ができる工夫、新しい発見につながるヒントなど、多くの意図がありました。また、子ども達も友達同士で認め合い助け合う姿に触れ、お互いに影響し合い、試行錯誤を通して遊びを発展させていくことの大切さを感じました。

日々の生活の中で、友達を意識しあうことを促し、活動の手助けとなるような配慮を工夫するなど、状況や子どもの様子に合わせて保育者自身も試行錯誤しながら子ども達と関わるのが大切だと学びました。

12月の忍ヶ丘保育者塾では、毛利和子先生(NPO法人nichi nichi)から病棟保育についてご講話いただきました。さまざまな制約の中で過ごす子ども一人一人の興味や「やりたい」気持ちに寄り添い、実現に向け工夫される病棟保育士の職務内容について学びました。

特に、院内のプレイルームや病室等での遊びは、子どもにとって夢中になって楽しめる大切な時間であり、時にはその楽しさによって病気の痛みに打ち勝つこともあるようです。保護者にとっても、遊びを通して子どもと穏やかな時間を過ごせるだけではなく、気持ちを誰かと共有することのできる、貴重な交流の場となっていることがわかりました。

子どもの「やりたい」気持ちに寄り添い、さまざまな人をつなぐ架け橋のような病棟保育士の仕事を深く知る、大変貴重な機会となりました。



MIU こどもパーティーのおしらせ

教育学部で保育を専攻する学生による
MIU こどもパーティーを今年度はじめて開催！

保育者養成実践講座の時間に、
教材研究やグループディスカッションを
重ねてきました◎

こどもたちが、
作って遊んだり、絵本や紙芝居をみたり、
いつもとはちょっと違う自分になってみたり、
自分の「好き」をみつけて楽しめるよう、
心を込めて準備をしています！

ぜひ遊びにきてください♡

日時：2026.3.14(土)
10:15~15:30

場所：宮崎山形屋
四季ふれあいモール



へんしんまのしむ



とばしてあそぶ

まわしてあそぶ



ふってあそぶ



いつ来ても楽しめる！を大事にします

イベント情報

宮崎国際大学に行こう！ 春のオープンキャンパス



こんな方にぴったりなイベント！

- ✓ 大学がどんなところか見てみたい
- ✓ 大学生の先輩と話がしたい
- ✓ 個別に相談や見学がしたい

開催日程

3月21日(土)

9:30 スタート 12:00 終了予定

イベントは予約制です。
本学のホームページより
申し込みをお願いします。

わかる！

1 大学を理解することができ！

初めてでも安心！
大学の概要から学部の詳細まで詳しく説明します。

どんな大学？
しっかり理解できる！



役立つ！

2 大学の授業を体験できる！

実際に入学したあとをイメージした授業を体験できます！

自信をもって
受験に挑める！



聞ける！

3 先輩たちと交流できる！

気になる入学前の不安やこれからの進路選びについて質問することができます。

なんでも質問してみよう！



教育学部

所在地：〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話番号：0985-85-5931

ホームページ：<https://www.miu.ac.jp/>

